

はじめに

富山医科薬科大学薬学部
分子細胞機能学研究室
今中 常雄

本フォーラムも6年目を迎え、これまでに多くのテーマで開催されてきましたが、今回は「脂質ホメオスタシスと創薬 リポネットワークからのアプローチ-」というタイトルで脂質代謝を取り上げさせて頂きました。

我が国も人類史上はじめての少子高齢化社会を迎えています。社会を活性化するためにも国民の「quality of life」を維持し、健康で元気な社会をつくることが重要な課題になっています。中年以降、肥満、高脂血症、糖尿病、高血圧、動脈硬化、虚血性心疾患、脳梗塞などいわゆる生活習慣病をいかに予防するかが求められています。またこれらの病態はいわゆるメタボリックシンドロームという概念から捉えられ、重要な診療ならびに創薬のターゲットになってきています。そこで、今回のフォーラムでは、これらの病態に密接に関連する脂質代謝を取り上げ、5人の演者の方に創薬の観点を踏まえてご講演頂くことになりました。

植田先生には、最近脂質代謝制御の上から注目を集めている ATP binding cassette (ABC) トランスポーターについて、その構造と機能ならびに創薬のターゲットとしての観点から、佐藤先生には、転写因子 sterol regulatory element binding protein (SREBP) を中心にコレステロール代謝制御の分子機構と創薬について、岡本先生には、HDL から VLDL や LDL へのコレステロール逆転送に関わる cholesterol ester transfer protein (CETP) をターゲットとした動脈硬化抑制に関する創薬研究についてご講演いただきます。また、脂質代謝異常は神経変性疾患とも密接な関連性があります。そこで守田先生には先天性疾患である副腎白質ジストロフィーの病態解析と創薬の基礎的検討について講演していただきます。最近、スタチン系薬物によるコレステロール低下作用以外の pleiotropic effect (多面作用) が注目されています。浦風先生には、スタチン系薬物やアディポネクチンによるインターロイキン-8 の産生制御と抗動脈硬化作用についてご講演いただきます。以上の講演を通し、基礎研究へのアプローチと創薬への方法論が皆様のご研究の一助になればと思います。

さて、2日後には県内3国立大学法人の統合により新富山大学が発足します。新大学の理念は、国際水準の教育研究を行い、高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会へ貢献することです。富山の特色の一つである「薬業(創薬)」にいかに関与するかは重要な課題の一つです。また統合を機に医薬理工の総合大学院が設立される予定であり、和漢薬研究所も和漢医薬学総合研究所へと改組されます。これを機会に、新大学の執行部の先生方や企業を代表する方をお招きし、「富山県内3大学統合と創薬研究」というタイトルでパネルディスカッションを行います。活発なご議論をお願いいたします。

< 略歴 >

氏名 今中 常雄

学歴 1975年3月 広島大学医学部薬学科卒

1977年3月 広島大学大学院薬学研究科修士課程修了

学位 1985年2月 薬学博士（東京大学）

職歴 1977年4月 帝京大学薬学部助手

1985年4月 米国 Rockefeller 大学 Postdoctoral fellow（3年間）

1988年7月 帝京大学薬学部講師

1997年4月 帝京大学薬学部助教授

1998年4月 富山医科薬科大学薬学部教授 現在に至る

所属学会：日本薬学会（広報委員）、日本生化学会（評議員）、日本動脈硬化学会（評議員）、
日本分子生物学会、日本細胞生物学会、アメリカ細胞生物学会など